

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

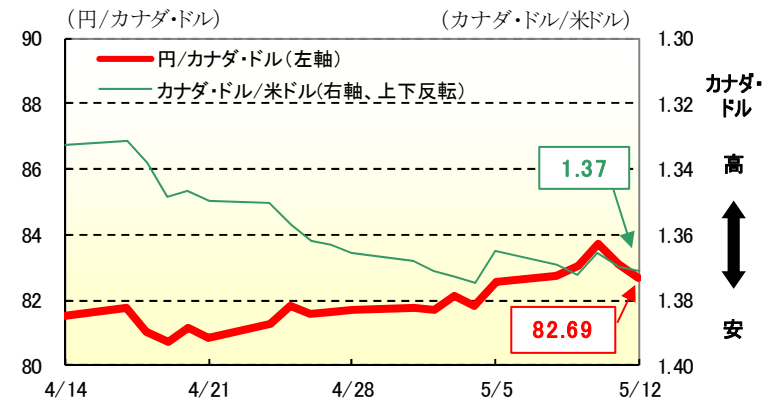
【2017年5月6日～2017年5月12日の推移】

### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円相場およびカナダ5年国債利回りは小幅に上昇しました。

週前半は原油価格の上昇などにより、金利やカナダ・ドル円相場は上昇しました。しかし、週後半では、カナダの主要銀行6行の格付けが引き下げられたことや、米国で発表されたCPI(消費者物価指数)などの経済指標が市場の予想以下だったことなどから、金利やカナダ・ドル円は上昇幅を縮小させました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年4月14日～2017年5月12日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

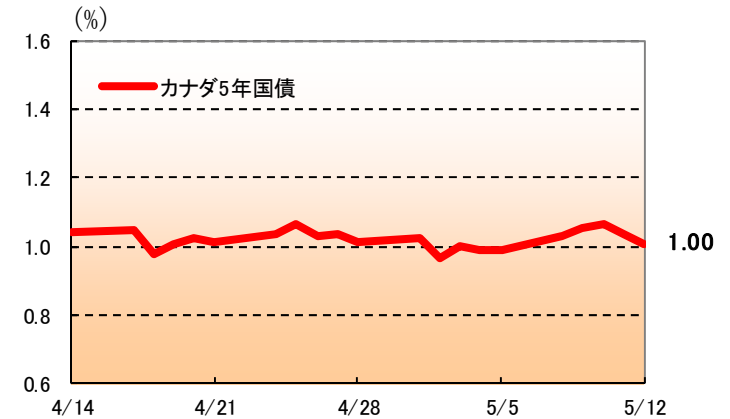
### 【2】今週の見通し

今週は、カナダでは小売売上高やCPIなどの経済指標が発表されますが、これらが市場予想を上回る堅調な結果となれば、金利およびカナダ・ドルの上昇に寄与するとみられます。

カナダについては、経済環境の好転などを背景に当面は政策金利を据え置きつつも、次の政策金利の変更は利上げ方向とみています。世界的にも金融政策は緩和から正常化へ向かう流れとなっており、カナダは金利上昇圧力が優勢になるとみています。

また、直近はカナダの住宅市場の減速を懸念する向きもあります。しかし、カナダ政府および州政府当局は、ここ数年、住宅市場の過熱防止を企図した政策運営を続けていることから、ここもとの住宅市場の減速懸念が景気悪化に対するリスクを急激に高めるとはみていません。

【カナダ 金利推移】 (2017年4月14日～2017年5月12日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>